

☆話す・聞く☆

意見を伝えたり提案したるとき

- ① 目的や意図に応じて、話題を決める。
- ② 話す材料を集める。
- ③ 集めた材料を分類したり関係付けたりする。



意見や提案を聞くとき

【聞くときに気を付けること】

- 話し手の目的は何か、自分に伝えたいことは何かなどをふまえて内容を聞き取る。
- 自分が聞く目的に応じて、話の内容をとらえる。
- 話し手の考えと自分の考えを比べて、共通する点や異なる点を整理し、自分の考えをまとめる。

グループやクラスで話し合うとき

- ・ 説明を補足したり、伝えたいことを強調したりするために資料を活用する。
- ④ 話の構成を組み立てる。

- 互いの立場や意図を明確にして、異なる立場からの考えの理由を聞き、考えを広げたり、まとめた

- ・ 事実と感想、意見とを区別する。
- ・ 接続語や文末表現に注意してそれぞれの関係を明らかにしていく。

- 話し合いの目的、内容、順序、時間配分、方向性等を明らかにしてから話し合う。
- 互いの意見の共通する点や異なる点、利点、問題点等をまとめ、自分の考えに生かせるようにする。

【話すときに工夫すること】

- 説明を補足したり伝えたいことを強調したりするために資料を使いながら話す。

☆書く☆

調べたことを書くとき

① 目的や意図に応じて、書くことを決める。

② 書く材料を集める。

③ 集めた材料を分類したり関係付けたりする。書く材料をくらべたり、分けたりして選ぶ。

・内容ごとにまとめる。

・互いに結び付けて何が言えるかを考える。

④ 文章全体の構成（序論・本論・結論）や展開を考えて書く。



筋道の通った
文章にしよう！



・論の進め方に注意して組み立てる。

統括型（とつかつがた）… 結論→理由

尾括型（びかつがた）… 理由→結論

双括型（そうかつがた）… 結論→理由→結論

・つながりや並び方を意識する。

「考えと理由、事例」「原因と結果」

「疑問と解決」

・読み手が考えを理解しやすいように書き方を工夫する。

【工夫の例】

書き出し→読み手の関心のある事例や、全体の

おおよその内容を配置する。

終わり→全体のまとめを書く。

書くときに注意すること

・事実と意見、感想を区別して書くために文末表現に注意する。

・目的を明確にして、引用したり図表やグラフを用いたりし自分の考えが伝わるように工夫する。

※図表を用いる場合は、本文に「図ーは〜」「表ーは〜」と書く。

⑤ 文章全体の構成や書き表し方に着目して、文や文章を整える。

・内容や表現に統一性はあるか。

・目的や意図に応じた構成になっているか。

・事実と感想、意見が区別して書かれているか。

・引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切か。

感想文を書くとき

①書く材料を集める。

書く材料 (例)

- ・この本を一言でいうとどんな本か。
- ・本を選んだ理由
- ・印象に残った言葉とその理由
- ・疑問に思ったこと



- ・自分が主人公だったらどうするか。
 - ・主人公と同じような経験をしたときのこと
 - ・友達への紹介をしたらどんなことか。
 - ・この本が伝えたかったこと
 - ・この本から学んだこと
 - ・学んだことをこれからどう生かしていくか。
 - ・本を読む前と読んだ後で考えが変わったこと
- ②書く材料を比べたり、関連付けたりして選ぶ。
- ③文章全体の構成や展開を考えて書く。
- ・筋道の通った文章となるように、論の進め方に注意して組み立てる。
 - ・つながりや並び方を意識する。

○本の内容を伝えるだけの感想文にならないように注意する。

【文の構成例】

終わり	中	始め
<p>○この本が伝えたかったこと</p> <p>○この本から学んだこと</p> <p>○学んだことをこれからどう生かしていくか。</p> <p>など</p>	<p>○本を読む前と、読んだ後で考えが変わったこと</p> <p>など</p>	<p>○この本を一言でいうとどんな本か。</p> <p>○印象に残った言葉とその理由</p>

☆読む☆

説明文を読むとき



○要旨をいらねえ。

手がかりにするもの

- ・文章全体の構成。
- ・事実と感想、意見などの関係をおさえる。

※要旨：書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事からや書き手の考えの中心となる事がい。

○目的に応じて必要な情報を見付ける。

↓文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びついているのかを明らかにする。

○書き手の考えの伝え方について考えをもつ。

↓どのように論を進めているのか。

↓どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのか。

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。

物語を読むとき

○登場人物の相互関係や心情などについていらねえ。

手がかりにするもの

- ・描写（物事の様子や場面・行動や心情・読み手が想像できるように描いたもの）
- ・登場人物相互の関係に基づいた行動や会話

情景が暗示している
こともあるぞー！



○人物像を具体的に想像する。

手がかりにするもの

- ・登場人物の行動や会話、様子などを表している文
- ↓いくつかの文を結び付けて、それらを基に性格や考え方を判断する。

○物語の全体像を具体的に想像する。

手がかりにするもの

- ・登場人物や場面設定
- ・内容や表現
- ・場面の移り変わり

○様々な表現が読み手に与える効果について、自分の考えを明らかにする。

☆言葉☆

漢字の成り立ち

- ①象形文字：物の形をかたどった文字【人 川 山】
- ②指事文字：点や線の組合わせで表した文字【三 五】
- ③会意文字：意味を合わせた文字【休 男 早】
- ④形声文字：意味を表す字と音を表す字を組み合わせ

た文字【校 絵 体】

敬語(けいご)

- ①尊敬語(そんけいご)：話す相手や、話題になっっている人の動作を高めることで、敬意を表す言い方
 - ・夕食を召し上がっていきませんか。
 - ・市長がお店にいらっしゃった。
 - ・校長先生がお話になる。
- ②けんじょう語：自分がへりくだることで、相手に敬意を表す言い方
 - ・お昼ご飯をいただきました。
 - ・お客様に申し上げます。
 - ・お店の中をご案内します。

③ていねい語：ていねいに言う言い方

- ・わたしの名前は、はるかです。
- ・妹が、遊園地に出かけました。



和語・漢語・外来語

- ①和語：もともと日本にあった言葉(漢字で書いたときに訓で読む言葉) 友達とおやつを食べる。
- ②漢語：中国から入ってきた言葉(漢字で書いたときに音で読む言葉) 友人と間食をとる。
- ③外来語：漢語以外の外国から入ってきた言葉 スナックを食べる。

熟語

- ①一字の語 十二字熟語 【大記録 新世界】
- ②二字熟語 十一字の語 【時間割 理科室】
- ③一字の語が三つ 【衣食住 大中小】

熟語の構成

- ①似た意味を表す漢字の組合わせ 【減少 行進】
- ②意味がついになる漢字の組合わせ 【南北 進退】
- ③上の漢字が下の漢字を修飾しているもの 【牛肉】
- ④上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表すもの 【記名 洗顔】

【非行 無理】

- ⑤上の漢字が下の漢字の意味を打ち消しているもの